



デジタル空間

デジタル化の未来①

国際社会経済研究所 (NECグループ) 主任研究員

松永 統行



で世界の市場は一体化し、時空を超えたグローバルな経済活動が始まった。

ネット革命

背景にはデジタル化の3段階がある。まず、アナログとは対極的な「0」と「1」のデジタルコンバーションで、テレビの映像も電




情報処理をするコンピュータの登場により、情報は何回も複製も、異種の情報がイン

でも、はるか遠くまでネットワーク上で統合的に扱えるようになった。海

底ケーブルや専用回線が張り巡らされ、24時間稼働する金融ネットワークに、AIが重なり、コ

ンピューターは、話し言葉が生まれ、プラットフォームが生まれたこと

デジタル化の3段階と情報社会革新

<p>デジタル化</p>  <p>コンピュータの高性能化 情報空間における距離と時間の拡張</p>	<p>デジタルコンバーゼンス</p>  <p>インターネットと多様な情報端末の登場 ヒューマン・マシン・インターフェースの高度化</p>	<p>デジタルトランスフォーメーション</p>  <p>多面的な情報環境と自律型分散ネットワークの構築 新しいインタラクティブコンピューティングによる多形連系 (ポリモルフィックネットワーク)ワーキング</p>
--	--	--

オーマが隆盛を極めながら進化するので、その時その場に適応した動的で柔軟なつながりや関係性を形成するポリモルフィック(多形リモルフィック)的な情報ネットワークが社会の中に生まれてくるのがこの変革の特徴である。

自律的に認知

そして現在、コンピュータは、人間が働きかけなくても、株式の超高速取引のよう

に、自律的に周りの環境や状況を認知し情報処理する。DXの時代を迎え、今後、このよ

うな金融分野ばかりではなく、実世界にある多様な立場や役割を持つ

た情報を多元的に理解できる経済基盤や社会的基盤が生まれてくる。

複雑な機能を持つ臓器が高度に協調する人形ネットワークのよう

に、複数の自律的な機構が情報空間の中で連系する。個別の機構が環境を知覚し学習しな

(金曜日に掲載)

多形構造的情報ネットワーク誕生

デジタル変革(デジタルトランスフォーメーション、DX)となった。は、2004年にスウェーデンのエリック・ストルターマン教授が、ITの浸透による生活の未来に向けた、より良い変化について提唱した概念。現在では、その定義が一段と現実的になり、ヒトとモノと企業がデジタル空間を通じて相互作用